

(八) 奈良本・穴ノ沢遺跡 あなのさわいせき

町文化財 昭和五十四年七月指定

穴ノ沢遺跡は、奈良本の穴ノ沢にあり、今から約九〇〇年前の縄文時代早期から人が住んでいたことがわかっています。穴ノ沢は、高さ約一六〇メートルで南を向いているので暖かく、近くには湧き水が出るなど人が住むには適した場所であったと考えられます。

昭和四十年（一九六五年）に丸鉄園にあつた池を掘っていたとき、食事の煮炊きなどに使われた土器の破片や弓矢の先である鏃を作る黒曜石などが出てきました。このことから、この場所が昔、人が住んでいた遺跡であることがわかりました。

昭和五十九年（一九八四年）には、狭い範囲での発掘調査が行なわれ、縄文時代早期からの土器の破片や石器など約二〇〇点と、お墓と考えられる穴である土抗が三つ見つかっています。この土抗は、縦約一メートル、横約

五十センチ、深さ約三十センチの楕円形をしていました。また、何に用いられたかわかりませんが、石を並べたものなどが発見されています。

このような狭い範囲の調査から非常に多く出土物、土抗、石を並べたものなどが見つかっていることから、この遺跡周辺には多くの人が住んでいたと考えられています。

